

ISO 9001
ISO 14001
全社登録

ローラーで簡単に施工できる砂壁状塗料

444-70

F☆☆☆☆

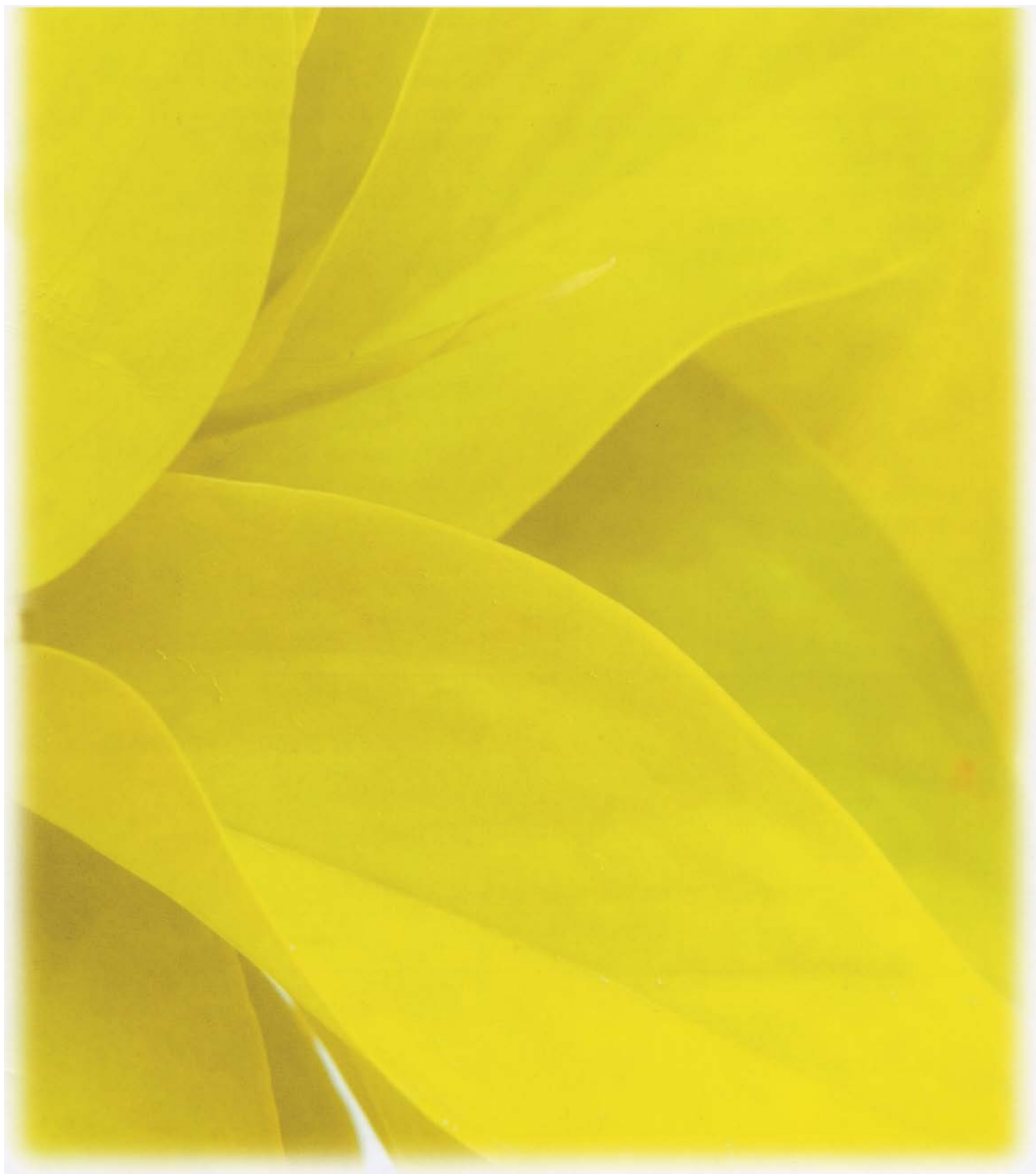
ホルムアルデヒド放散等級

ラフロール

さわやかな環境の提案



神東塗料



■ラフロールNについて

ラフロールNはローラー工法で砂壁状仕上げが可能な水系の塗料です。

ごく細かい骨材が配合されている「ラフロールN」と、骨材が配合され、より砂壁状仕上げが容易に可能な「ラフロールP」の2種類を備えています。

塗替えおよび新設時の壁面、天井面への塗装が可能です。特にアクリルリシン吹付面の改修に適した塗料です。

■特長

- 特殊合成樹脂エマルジョンが主原料であり、合成樹脂エマルジョンペイントに比べ、耐水性・耐候性・耐アルカリ性に優れています。
- 「ラフロールN」「ラフロールP」は、水系塗料でホルムアルデヒド放散等級もF☆☆☆☆と環境に配慮した塗料です。
- 合成樹脂エマルジョンペイントに比べ塗膜が厚いため、狭小な塗膜のクラックなどを被膜することができます。また、砂壁状既存塗膜の剥離箇所には「ラフロールP」を先行塗りすることで段差の緩和を図ることができます。
- 「ラフロールN」「ラフロールP」は、透湿性を有し、軒天・上裏の塗装に適しています。
- 「ラフロールP」は、適度な粒径分布をもった骨材を使用していますので、作業性が良好です。また、骨材の固着性も優れています。

■用途

- 外壁、内壁、階段室、天井面の砂壁状仕上げ
- アクリルリシン吹付面の塗替え

■適用下地

- アクリルリシン吹付面など
- コンクリート、モルタル面など

■試験結果(ラフロールP)

JIS A 6909 外装薄塗材Eに準ずる試験を実施

試験項目		規格	結果
低温安定性(-5℃)		塊がなく、組成物の分離及び凝集がないこと。	合格
初期乾燥によるひび割れ抵抗性		ひび割れがないこと	合格
付着強さ N/mm ²	標準状態	0.5以上	1.8
	浸水後	0.3以上	1.7
温冷繰返し		試験体の表面に、ひび割れ、はがれ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がないこと。	合格
透水性A法 mm		10以下	0.5
耐洗浄性(500回)		はがれ及び摩擦による基板の露出がないこと。	合格
耐衝撃性		ひび割れ、著しい変形及びはがれがないこと。	合格
耐アルカリ性A法		ひび割れ、はがれ、膨れ及び軟化溶出がなく、浸さない部分に比べて、くもり及び変色が著しくないこと。	合格
耐候性A法 (キセノン300H)		ひび割れ及びはがれがなく、変色の程度がグレースケール3号以上であること。	合格

■ラフロールの塗装仕様

○下地ごしらえ

※塗替え工事…… ぜい弱な旧塗膜、(旧リシン等)は、ワイヤブラシ・デッキブラシ等で除去する。特に汚れ、劣化の著しい箇所・場所は高圧水洗など、適切な下地調整を実施する。

※新築工事…… 下地付着物(エフロレッセンスによる白粉・未硬化セメント粉末・その他付着物)を完全に除去する。

※その他…… ● 巣穴・段違いは、セメントフィラー、樹脂モルタルなどで充填する。

● 目違い・不陸・塗膜剥離の段差はサンダー掛けを行う。

● 下地のひびわれは、ひびわれの幅に応じた適切な下地調整を実施する。

(0.2mm未満はシール工法、0.2mm以上はUカットシール材充てん工法など)

●ラフロールNの場合

■新設時

工 程	塗 料 名 (希釈剤)	希 釈 率 %	塗 付 量 (kg/m ² /回)	塗 り 回 数	塗 装 間 隔 (23℃)	塗 装 方 法	
1	素地調整	エフロ、レイタンス、汚れ等をワイヤブラシ、サンドペーパー、ウエス等を用いて除去する。油分、汚れ、ほこりを除去し、表面を清掃し乾燥させる。pH10以下、含水率10%以下(デジタル水分計の場合5%)					
2	下 塗	ラテックスシーラー (水道水)	150~200	0.05~0.07	1	3時間以上	は け 塗 ローラー塗
3	上 塗	ラフロールN (水道水)	0~3	0.35~0.45	1~2	3時間以上	は け 塗 ローラー塗

■塗替え時

工 程	塗 料 名 (希釈剤)	希 釈 率 %	塗 付 量 (kg/m ² /回)	塗 り 回 数	塗 装 間 隔 (23℃)	塗 装 方 法	
1	素地調整	ケレン棒、ワイヤブラシ、サンダーなどを用いて脆弱部分を除去する。 旧塗膜面に付着している塵埃、汚れ、油脂を研磨紙、ブラシなどを用いて除去する。					
2	下 塗	シントー水性Mシーラー	無希釈	0.10~0.13	1	3時間以上	は け 塗 ローラー塗
3	段ならし	既存塗膜と同系等の塗料(またはラフロールP)にて段ならしを行う。(放置時間は16時間以上)					
4	上 塗	ラフロールN (水道水)	0~3	0.35~0.45	1~2	3時間以上	は け 塗 ローラー塗

ローラーは、中毛ローラーを使用してください。

●ラフロールPの場合

■塗替え時

工 程	塗 料 名 (希釈剤)	希 釈 率 %	塗 付 量 (kg/m ² /回)	塗 り 回 数	塗 装 間 隔 (23℃)	塗 装 方 法	
1	素地調整	ケレン棒、ワイヤブラシ、サンダーなどを用いて脆弱部分を除去する。 旧塗膜面に付着している塵埃、汚れ、油脂を研磨紙、ブラシなどを用いて除去する。					
2	下 塗	シントー水性Mシーラー	無希釈	0.10~0.13	1	3時間以上	は け 塗 ローラー塗
3	段ならし	既存塗膜と同系等の塗料(またはラフロールP)にて段ならしを行う。(放置時間は16時間以上)					
4	上 塗	ラフロールP (水道水)	0~2	0.40~0.60	1~2	3時間以上	は け 塗 ローラー塗

ローラーは、スチップルローラーまたは多孔質ローラー(細目)等を使用してください。

■ご使用上の注意事項

●現場塗装の一般的禁止事項

01. 気温5℃以下のときは塗装を避けてください。気温が低くなりますと乾燥が非常に遅くなります。低温時に塗装するときは加温対策が必要です(気温15～30℃の範囲が良好です)。
02. 湿度85%RH以上のときは塗装を避けてください。被塗面の水分によって、塗膜の乾燥造膜が悪くなり、期待する塗膜性能を発揮できないことがあります(40～70%RHが良好です)。
03. 被塗面に結露があるときは塗装を避けてください(特に朝夕の結露には注意してください)。
04. 塗装後2時間以内に降雨、降雪が予想される場合は塗装を避けてください。
05. 強風、砂ぼこりが多いときは塗装を避けてください。砂塵、海塩粒子などが塗装中、乾燥後に付着すると塗膜性能低下、仕上がり不良となります。
06. コンクリート、モルタルへの塗装の場合、表面含水率10%以上(デジタル水分計の場合5%以上)、pH10以上のときは塗装を避けてください。コンクリート、モルタルが未乾燥状態のときは、アルカリ成分が多く、塗膜の付着性および仕上がりに悪影響を与えます。

●塗料の一般的取扱注意事項

01. 指定品以外の他品種、他品名の塗料との混合は絶対に行わないでください。
02. 塗料は使用する前に十分かき混ぜ均一な状態にしてください。多液形塗料の場合は、混合比に十分注意し、所定の割合で混合し均一になるまで十分にかき混ぜてください。また、小出しする場合は、必ずはかりを用い、正しい混合比で計量後、混合してください。
03. 希釈率、塗装間隔などは、規定の数値を厳守してください。
04. 開缶は原則として使用する直前に行き、開缶したものは、出来るだけその日のうちに使用してください。
05. さげ缶に小分けする時は、十分にかき混ぜたものを小分けし、使用するさげ缶はきれいなものを使用してください。
06. 残った塗料は常にフタをするよう心がけてください。
07. 塗料の保管は、直射日光や雨風を避け、出来るだけ屋内倉庫に貯蔵、管理するようにしてください。
08. 使用した塗装器具等は、直ちに水洗いしてください。

●緊急時および応急処置

01. 目に入った場合は、直ちに清浄な流水で15分以上洗眼し、出来るだけ早く医師の手当てを受けてください。
02. 皮膚に付着した場合は、石けん水でよく洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは、出来るだけ早く医師の手当てを受けてください。
03. 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなったときには、安静にし、必要に応じて、出来るだけ早く医師の診察を受けてください。
04. 誤って飲み込んだときは、出来るだけ早く医師の診察を受けてください。
05. 容器からこぼれたときには、砂などを散布した後、処理してください。

■色相

淡彩色、中彩色の一部に対応可能です。中彩色をご用命の場合は事前にお問い合わせください。

■商品構成

品 名	荷 姿
ラ フ ロ ー ル N	20kg
ラ フ ロ ー ル P	20kg
ラ テ ッ ク ス シ ー ラ ー	15kg
シ ン ト ー 水 性 M シ ー ラ ー	15kg

※ 安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)を参照してください。



神 東 塗 料

工場 尼崎・千葉

本 社 ☎ (06)6426-3355(代) FAX(06)6429-6188(代)
東京事業所 ☎ (03)3522-2111(代) FAX(03)3522-2150(代)

《製品に関するお問い合わせ》

西日本営業部 ☎ (06)6426-3763(代) FAX(06)6429-6268(代)
東日本営業部 ☎ (03)3522-1674(代) FAX(03)3522-1678(代)
名古屋事業所 ☎ (052)612-0293(代) FAX(052)612-0318(代)
北海道営業所 ☎ (0123)32-0431(代) FAX(0123)34-6199(代)
東北営業所 ☎ (022)285-7915(代) FAX(022)285-7813(代)
静岡営業所 ☎ (054)245-0135(代) FAX(054)247-4091(代)

北陸営業所 ☎ (076)262-1305(代) FAX(076)262-1315(代)
中国営業所 ☎ (082)264-6822(代) FAX(082)264-6821(代)
四国営業所 ☎ (087)841-1251(代) FAX(087)843-3108(代)
九州営業所 ☎ (092)472-2222(代) FAX(092)473-5777(代)
沖縄営業所 ☎ (098)943-0603(代) FAX(098)943-0609(代)
<http://www.shintopaint.co.jp/>

N0615BT-2